

ザンビアにおける道直し活動について

西日本高速道路株式会社 九州支社 永田修耶

3月のはじめ、アフリカ南部・ザンビア共和国の首都ルサカ近郊のンジョルウェにおいてNPO法人“道普請人”が行っている道直し活動に2日間参加させていただきました。

ザンビアの道路の状況は日本と比べても非常に悪く、首都のルサカですら舗装はされていても穴だらけのところがあり、未舗装の箇所も散見されるという状況です。特にンジョルウェにおいては未舗装は当たり前で、しかも土がむき出しの道が雨や通行する車両等により変形してしまっており、きわめて劣悪な状況でした。このような道路インフラでは円滑な通行、物資輸送が難しくなり最悪の場合、コミュニティの孤立を招きかねません。このため、今回の土のうを用いての道直し作業がいかに重要かを認識しました。

実作業では地元の方々との心地よい一体感が忘れられません。みんなで土のうを作って、道に敷いていく・・・とても楽しいひと時でした。みんな一生懸命に暮らしを良くしようとしており、私は少しでもそのお手伝いできたことを大変うれしく思います。

道普請人の活動を学ぶにおいて、最も感銘を受けたのは土のうにより丈夫な道を作るという比較的安価で、高度な技術や知識がなくても現地の人々の力により維持継続可能なシステムを採用している点です。将来的に人々の自立を視野に入れての支援ということで、真の人助けとはかくあるべきと感じました。

また私自身、海外に出るのは全くの初めてで、不安も多くありましたが木村先生を始め、多くの方々のバックアップがあり、非常に実りのあるものとなりました。自身の英語力を試すこともできましたし、何より温かく優しいザンビアの人々や日本では見られない自然に触れることができました。この活動で得た経験は今後の人生において、必ず役に立つものであると確信しています。木村先生、貴重な経験をさせていただきまして本当にありがとうございました。

